(Ⅳ－59)　歴史地区を対象とするGIS等情報技術の活用に関する研究
－西安市イスラム地区現地調査の報告－

東洋大学国際地域学部国際地域学科　　正会員　宮川　朝一

１．背景と目的

多くの発展途上国には、文化遺産として貴重な歴史地区を現代に継承していながら、それら地区に対する十分な保全・活用策がとられていない都市が多い。近年における社会経済の開発圧力の高まりに伴い、歴史地区が衰退し崩壊の危機に瀕している事例もある。それらの原因として、発展途上国の脆弱な財政基盤、歴史地区保全技術・制度等の情報不足、歴史地区保全への理解不足等複雑な要因が考えられる。

本研究は、発展途上国の歴史都市・地区の保全・活用を計画的かつ持続的な方法で行うことを目的としており、そのために、歴史地区の効率的な管理等を可能にするGIS等情報技術を活用した“歴史都市支援システム”の構築を目指している。本報告は、“歴史都市支援システム”の構築に必要な基礎的情報収集のため訪問した中国・西安市イスラム地区の現状について述べるものである。

２．調査概要

調査の概要は、下記の通りである。

①調査期間　２００１年１２月２０日～３１日

②調査対象地域　中国・西安市、鼓楼歴史街区を中心とするイスラム地区

③訪問機関　西安市城市規画管理局、西安市城市規画設計研究院、西安鼓楼歴史街区保護弁公室

④調査内容　主要な調査内容は、歴史地区の保全に係る都市計画、歴史地区内の建築規制等の有無及び内容、都市計画・都市管理におけるGIS等情報技術の活用状況、歴史地区保全に係るプロジェクト等の実施状況、都市地図等の入手可能性の５項目である。

３．西安市イスラム地区の概要

西安市は前漢、唐の時代には長安と呼ばれた古都であり、今日においては、中国におけるハイテク産業振興、高等教育・研究の拠点の一つである。中国にムスリムが渡来したのは唐・宋代であるとされており、西安市イスラム地区の起源も同時代に遡ることができるものと考える。

西安市中心部の明代城壁内にあるイスラム地区の面積は６８ha、人口（１９９４年現在）については、ムスリム（回族）は同地区全人口の３３．９３％（約２０，０００人）、その他多数を占めるのは漢族（３６，５００人）である。地区内の建造物の多くは、１８００年代あるいは１９００年代初期に建築された住宅が多く、現在、老朽化のため改築あるいは大規模な修復が必要な建造物が多い。それらの中には伝統的建築様式である四合院なども残され、鼓楼から北部に向かう北院門通り、清真大寺周辺地区は歴史的街並みの景観を形成している。また、この地区は西安都市観光の中心の一つであり、観光客向けの商店が清真大寺周辺にはあるが、基本的な土地利用形態は伝統的な住商混合になっている。

４．調査の成果と考察

①　歴史地区の保全に係る都市計画

西安市の都市計画マスタープラン（西安市総体規画　１９９５－２０１０）によれば、イスラム地区は伝統的住居保護地区として保全されることが定められている。一方で、同マスタープランの道路改築計画・都心再開発計画では、イスラム地区を貫通する幹線街路（Benguangji通り、Sajingiao通り）は幅員１０ｍの現道が５０ｍに拡幅されることになっており、一部の地区では開発が概成し、あるいは用地買収が進み沿道建物の除却が行われている。西安市都市計画担当者は、この拡幅による伝統的建造物群の破壊を懸念する意見もあると言うが、城壁内都市再開発の大きな波に歴史地区は呑み込まれてしまうかのようである。

キーワード：西安市、都市計画、歴史地区保全、イスラム地区、情報技術

連絡先：群馬県板倉町泉野１－１－１　東洋大学国際地域学部

② 歴史地区内の建築規制

イスラム地区には、伝統的な住居１２００棟におよそ６，９００世帯が居住しているといわれている。生活環境改善の目的などで、居住者自身により伝統的な木造住宅はブロック住宅に建て替えられる傾向が続いている。街並みを保全するには、建築規制・公的助成制度などの創設が有効であると考えられるが、西安市においても、建築規制の案である「西安回民歴史街区保護等更新規画設計指導原則」が策定されている。西安市担当者の説明では、政府の承認を得る手続きを開始する予定とのことである。

③ 都市計画・都市管理における GIS 等情報技術の活用

西安市城市規画管理局、西安市城市規画設計研究院におけるヒアリングでは、都市計画・都市管理に CAD は利用しているが、GIS は活用していないとのことである。

イスラム地区においては、その保全を目的とする China-Norway Cooperation Program が１９９９年から進行中であり、ノルウェーからの GIS 専門家の協力により地区内建造物の Inventory 作成等が行われている。

④ イスラム地区保全に係るプロジェクト

前述の China-Norway Cooperation Program により、毎年４月と９月、ノルウエーの建築学、考古学、GIS 等専門家が西安を訪ね、西安市及び西安建築科技大学城市規画研究院と共同で、イスラム地区の保全計画策定に必要な調査・解析を実施している。また、ノルウエーの資金援助を得て、イスラム地区に残る旧体制下の高級官僚邸宅１棟の修復工事が行われている。この中国政府所有の建物は、イスラムと中国の建築様式が混合した様式、構造を有する貴重なものとのことである。修復後の利用方法は未定である。

⑤ 都市地図等の入手可能性

国営の書店等で市販している都市地図は、現況を精確に表現したものではなく、街路など将来計画を表しているものである。都市計画策定等に必要な西安市航空地図、digital map は、西安市城市規画設計研究院が管理している。

５．おわりに

西安市の都市計画の基本は、現在の都心地区（明代城壁内地区）を再開発すると共に、産業・業務開発を周辺部の経済開発区に誘導しようとするものである。従って、幹線道路網は、都心地区を中心とする東西南北方向の大街路と３～４本の環状道路とを軸に計画されている。幹線道路網を始め市街地の近代化が急速に進み、都心地区に残る低層瓦屋根が連担する街並みは、数年の間に近代的オフィスビル街に変貌してしまうかもしれない。特に、都心にあるイスラム地区で保全される歴史的建造物は、モスクとその周辺の公有建造物のみになってしまい、伝統的な西安市民の生活形態は大きく変貌することになるのではないだろうか。それほどに、西安都心地区再開発の波は、大きく強力である。最後になりましたが、今回の調査では、西安市城市規画設計研究院副院長　高　省安先生、同院規画一室　周　海虹さん、梁文軍先生、同院市政室 孙燕平 さん、西安回民歴史街区保護項目弁公室 靖 斌 先生に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げたいとおもいます。

参考文献

・大西國太郎、中国・西安市・旧城内歴史的地域における街並み景観の変化に関する研究、都市計画学会１９９３年度学術研究論文集

・Dr.DongWei, PRESERVATION AND REDEVEROPMENT OF XI'AN DRUM-TOWER MUSLIM QUARTER-People's Participation in the Transition of an Ethnic Community, The World Cultural Heritage In Asian Countries Oct.13-18, 1997

・西安城市等建築研究所、China-Norway Cooperation Program- Xi'an Drum Tower Historical District Protection Project 控制性詳細規計画, 2001.12.12